



ミネベア株式会社決算説明会

2003年3月期第1四半期決算

2002(平成14)年8月9日
代表取締役社長 山本 次男

2003年3月期第1四半期 連結業績サマリー

(単位:百万円)	2001年度('02年3月期)				2002年度 ('03年3月期)	伸び率	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	前四半期比 (対'01年第4四半期)	前年同期比 (対'01年第1四半期)
売上高	69,988	66,894	68,536	73,926	72,367	-2.1%	+3.4%
営業利益	6,554	5,942	4,964	4,512	6,031	+33.7%	-8.0%
経常利益	4,804	4,148	3,835	3,208	4,524	+41.0%	-5.8%
四半期(当期)利益	—	—	—	—	1,903	—	—

※ 2001年度(2002年3月期)は、四半期決算を実施していないため当期利益は記載しておりません。

2003年3月期の第1四半期の連結業績は好調でした。営業利益は2002年3月期の第4四半期から大幅に増加しました。

注: 前四半期: 2002年3月期第4四半期(2002年1-3月期)

前年同期: 2002年3月期第1四半期(2001年4-6月期)

2003年3月期第1四半期 セグメント別売上高・営業利益

※計画は5月16日発表

(単位:百万円)	2001年度('02年3月期)				2002年度('03年3月期)	伸び率		2002年度('03年3月期) 上期(計画)
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	前四半期比 (対'01年第4四半期)	前年同期比 (対'01年第1四半期)	
〔売上高〕								
機械加工品	32,021	30,174	28,356	31,474	31,668	+0.6%	-1.1%	59,450
ベアリング関連製品	26,299	24,890	23,166	25,759	26,420	+2.6%	+0.5%	49,100
その他機械加工品	5,722	5,284	5,190	5,715	5,249	-8.2%	-8.3%	10,350
電子機器	37,624	36,354	39,879	42,444	40,699	-4.1%	+8.2%	82,550
回転機器	18,412	17,504	19,435	21,088	20,793	-1.4%	+12.9%	45,300
その他電子機器	19,212	18,850	20,444	21,356	19,908	-6.8%	+3.6%	37,250
流通販売その他	343	366	300	7	—	—	—	—
合計	69,988	66,894	68,536	73,926	72,367	-2.1%	+3.4%	142,000
〔営業利益〕								
機械加工品	7,014	5,550	4,678	4,893	5,098	+4.2%	-27.3%	9,800
電子機器	△457	383	296	△384	933	—	—	200
流通その他	△3	9	△9	3	—	—	—	—
合計	6,554	5,942	4,964	4,512	6,031	+33.7%	-8.0%	10,000

※ 売上は外部売上のみ

※ 四半期決算の開示は、当連結会計年度第1四半期より実施しております。

機械加工品セグメント、電子機器セグメントともに好調に推移しました。

ボールベアリングの販売数量は、昨年度の第4四半期から大きく伸び、今年度第1四半期は月平均1億4,200万個という実績でした。その結果、機械加工品セグメントの営業利益は、昨年度の第4四半期に比べ増加しました。

電子機器セグメントの営業利益は、回転機器、特にファンモーターの売上拡大により、9億円の黒字と、昨年度の水準から大幅に改善しました。

用途別売上高・海外地域別売上高

▶ 用途別売上高

	自動車	航空・宇宙	家電機器	情報通信機器	PC及び周辺機器	モータ	その他	合計
売上高比率	7.2%	9.7%	10.6%	11.4%	42.5%	5.4%	13.0%	100.0%
前四半期比伸び率 (対'02年1-3月期)	+1.1%	+0.0%	+8.3%	+3.1%	-8.9%	+11.9%	+1.5%	-2.1%

▶ 海外地域別売上高

	日本	アジア (除 日本)	アメリカ	ヨーロッパ	合計
売上高比率	27.2%	38.2%	21.1%	13.4%	100.0%
前四半期比伸び率 (対'02年1-3月期)	-0.4%	0.2%	-6.0%	-5.5%	-2.1%

<用途別売上高>

昨年度第4四半期と比較して、家電機器向けと情報通信機器向けが伸びました。

PC及び周辺機器向けは昨年度第4四半期比マイナスでした。これは、昨今のPC業界のスローダウン及びHDD関連の在庫調整の影響によるものです。

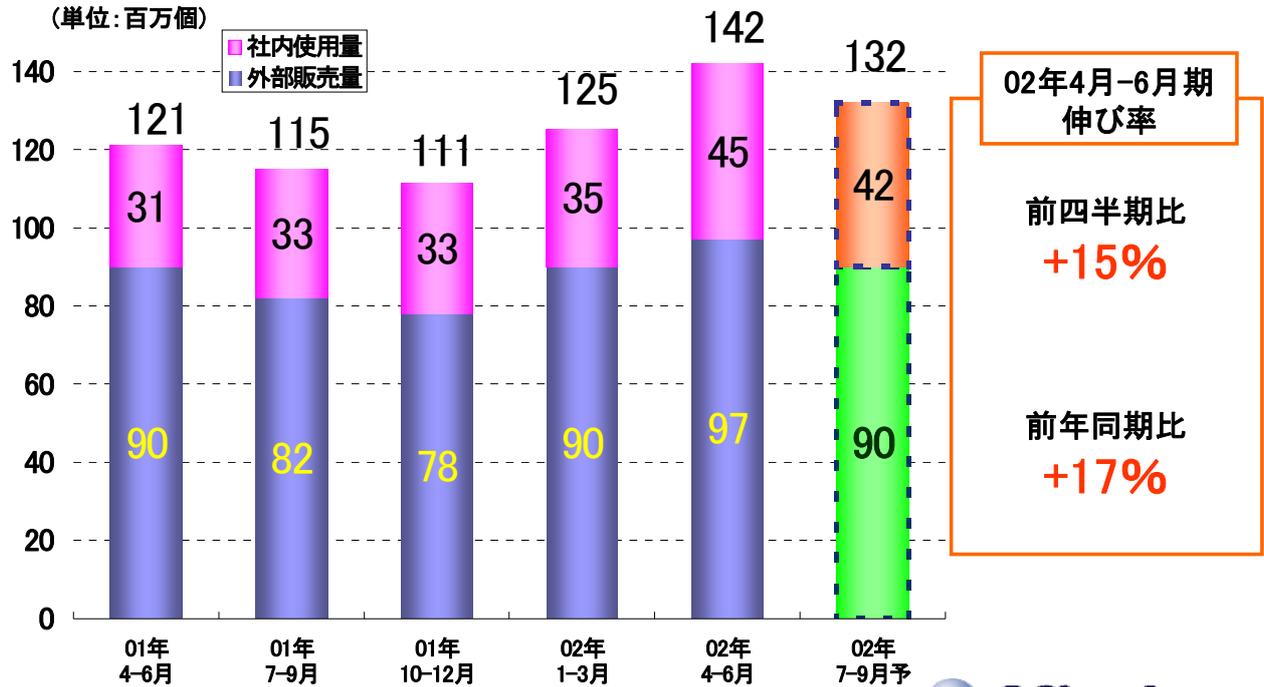
家電機器向け売上の伸びは、VTR用のベアリングが予想以上に堅調だったことと、中国のエアコン用のベアリングが大きく伸びたことが大きな要因となっています。今年度第2四半期については、VTR用ベアリングは同様な水準で推移するものの、中国エアコン用ベアリングは季節要因により減少すると見えております。

<地域別売上高>

日本を除くアジアが若干増えましたが、これは中国地区での売上が増えた結果です。日本は、相次ぐ客先の生産基地の海外移転により、市場が縮小している状況の中で、昨年度第4四半期比0.4%のマイナスと、割合健闘しました。アメリカ並びにヨーロッパは、それぞれ昨年度第4四半期比6%減、5.5%減ですが、これは主に航空機産業向け売上の落ち込みによるものです。

機械加工品

ボールベアリング販売数量(月平均)



ボールベアリングの販売数量は、昨年度の第3四半期を底にして、昨年度第4四半期また今年度第1四半期は、外販、社内使用ともに増加しています。殊にこの第1四半期は、月平均1億4,200万個という過去最高の販売実績をあげることができました。伸び率では、対前四半期(2002年1-3月期)比15%増、前年同期比17%増となっています。

第2四半期はこの第1四半期に比べて厳しい条件が重なると予測されます。AV機器や音声機器等は第2四半期までは比較的堅調と思われませんが、PC関連は生産調整の影響を相当強く受ける事になると思われます。しかし、ベアリングは他の部門に比べると底力があり、需要環境に多少の変動があっても大きく揺れませんので、第2四半期の月平均1億3,200万個の見通しは、比較的固いといえます。

ベアリング関連製品

ボールベアリング (ベアリング関連製品のうち売上比率7割)

4-6月期	売上高	1-3月期比 3%増(前年同期比 1%減)
	外部販売数量	1-3月期比 8% 増
	社内使用量	1-3月期比 29%増
7-9月期見込み	外部販売数量	4-6月期比 7%減
	社内使用量	4-6月期比 7%減

ロッドエンド・スフェリカルベアリング (ベアリング関連製品のうち売上比率1割)

4-6月期	売上高	1-3月期比 7%減(前年同期比1%増)
7-9月期見込み		計画通り

ピボットアッセンブリー (ベアリング関連製品のうち売上比率2割)

4-6月期	売上高	1-3月期比 8%増(前年同期比 7%増)
	数量	1-3月期比 13%増
7-9月期見込み	数量	4-6月期比 7%減

ベアリング関連製品の売上比率は、ボールベアリングが全体の7割、ロッドエンド・スフェリカルベアリングが1割、ピボットアッセンブリーが2割です。

ボールベアリングについては先程申し上げましたので割愛させていただきます。

ロッドエンド・スフェリカルベアリングの第1四半期の売上は、航空機関連の減少が響いた結果、昨年度第4四半期比7%減少となりました。第2四半期の見込みは元々そのような条件を織り込んでいますので、計画どおりであります。

ピボットアッセンブリーは、第1四半期は昨年度第4四半期比13%ほど数量が伸びていますが、6月から始まったPCの生産調整、在庫調整の煽りを受けて、第2四半期には第1四半期比7%ほど減少する見通しです。

(注: ボールベアリング部門の販売数量はミニチュア・小径ボールベアリングの販売数量ですが、売上高金額には、米国の航空機向けボールベアリング等も含まれます。

ピボットアッセンブリーの販売数量はピボットアッセンブリーの販売の数量ですが、売上高金額にはテープガイド等の他関連製品の売上高が含まれます。)

回転機器

ファンモーター（回転機器のうち売上比率3割）

4-6月期	売上高	1-3月期比 16%増（前年同期比 21%増）
	数量	1-3月期比 14%増
7-9月期見込み	数量	4-6月期比 27%増

ステッピングモーター（回転機器のうち売上比率3割）

4-6月期	売上高	1-3月期比 1%増（前年同期比 15%減）
	数量	1-3月期比 1%増
7-9月期見込み	数量	4-6月期比 5%増

HDDスピンドルモーター（回転機器のうち売上比率4割）

4-6月期	売上高	1-3月期比 12%減（前年同期比 35%増）
	数量	1-3月期比 横ばい
7-9月期見込み	数量	4-6月期比 15%減

回転機器は、ファンモーター、ステッピングモーター、HDD用スピンドルモーターに代表され、各々、3割、3割、4割という売上比率になっています。

ファンモーターの売上高は、第1四半期は昨年度第4四半期比16%伸びました。数量も第4四半期に比べて14%増加しました。また、第2四半期においても他の製品が比較的弱含みの予測がされる中で、ファンモーターは非常に勢いがあり、27%増を見込んでいます。理由として、現在、チップクーラー、ゲーム機業界に参入し、急速にシェアを高めようとしている結果です。そのため、ファンモーターのトータルのマーケットの伸びよりも、当社のシェアの伸びが大きくなっています。

ステッピングモーターの売上高は、第1四半期は昨年度第4四半期比1%増で、数量も同様の伸びでした。第2四半期は5%程度の伸びの見通しです。ステッピングモーターは比較的成熟されたマーケットの部類に入り、安定しています。PPCの複合機向けなどに大幅に増加しています。

HDDスピンドルモーターの売上高は、昨年度第4四半期比12%減、数量は横ばいでした。4、5月は販売数量も伸び好調でしたが、6月に急に当社の主要客先による大幅な生産調整がみられました。おそらく第2四半期まではその生産調整の影響が残り、第1四半期比15%減と見込んでいます。

（注：ステッピングモーター部門は、電動パワーステアリングモーターなど自動車用モーターを含みません。）

その他電子機器

キーボード（その他電子機器のうち売上比率 4割）

4-6月期	売上高	1-3月期比 12%減（前年同期比 43%増）
	数量	1-3月期比 9%減
7-9月期見込み	数量	4-6月期比 13%増

* 新事業展開

パワーエレクトロニクス（その他電子機器のうち売上比率 2割）

4-6月期	売上高	1-3月期比 6%増（前年同期比 13%増）
7-9月期見込み	売上高	計画通り

その他電子機器の売上は、キーボードが4割、パワーエレクトロニクス(主にスイッチング電源)が2割を占めています。

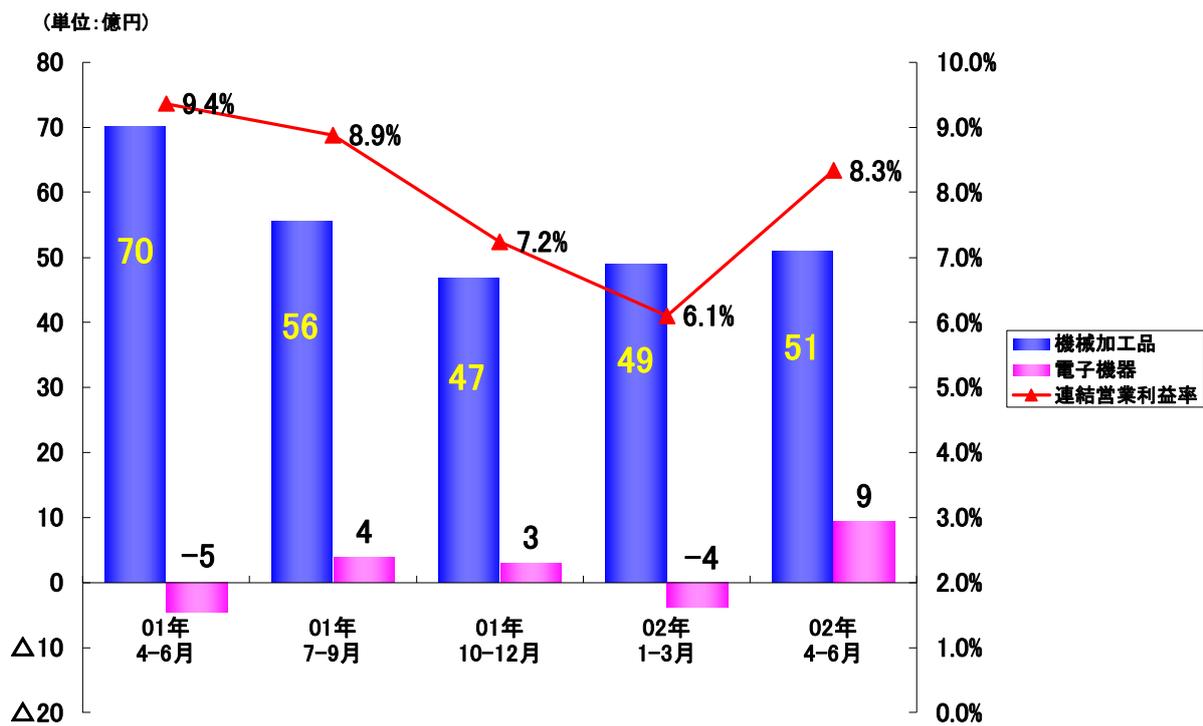
キーボードは、前期第4四半期に比べ、売上が12%、数量が9%減少しました。昨年度第4四半期は当社の生産性が非常に上がり、お客様の要求にも合わせることができ、良い成績を達成しましたが、今年度第1四半期は丁度、当社の主な客先でのモデルチェンジやモデルの端境期に当たったため、第1四半期は昨年度第4四半期に比べ減少しました。しかし、第2四半期においては、完全に次の波に乗れる見込みのため、13%増と予測しています。

当社はキーボードについて、コネクタやワイヤー、電子部品を除くほとんどの部品の生産および組立をタイのバンパイン工場で行ってきており、キーボードの世界市場シェアの約20%を持つトップメーカーの1社です。しかしながら、最近では客先である大手PCメーカーならびにキーボードの競合メーカーの生産拠点が中国、中でも上海周辺に集中して来ています。このような状況で、さらなる事業規模の拡大と収益性の向上を目的に、シンガポール法人のハンシングループと合併会社を設立し、その中国子会社の上海地区の工場において、キーボードの現地生産を開始する事を決定致しました。

オペレーション(製造)、労務管理などはハンシンに一任し、当社は技術開発および生産技術指導、販売を行います。このように、「ハンシングループの中国における事業展開のスピード」と「当社の開発・技術力ならびに販売ネットワーク」、「中国での現地生産によるコスト競争力」が結びつく事により、大幅なシェアアップが可能となり、現在の20%を将来は40%まで引き上げたいと考えています。

パワーエレクトロニクスは、前第4四半期比6%増加しました。大きな伸びではありませんが、PC向けなど、若干増える分野がありました。第2四半期に関しては、計画通りを見込んでおります。

営業利益推移



8



営業利益率は、グラフに示すとおり、昨年度の第4四半期の6.1%を底に、今第1四半期は8.3%に上昇しました。昨年度赤字だった電子機器が今第1四半期は回復して黒字化したためです。

販管費推移



販管費は、前年同期の18.7%から17.1%と、1.6ポイント、金額にして約7億円下がりました。

業務改革委員会が先導し、業務、事務、営業、製造各班に亘って、経費削減を徹底した効果が表れています。

第2四半期の状況

- 上期・通期業績予想変更なし
- 松下電器産業株式会社と2.5インチHDD用FDBモーターの生産委託について合意
- キーボード新事業戦略

直近の世界の経済状況を見ますと、ポジティブな材料が少ないことから、計画をそのまま踏襲することといたします。

HDD用スピンドルモーターに関する松下モータ社との生産委託事業の進展状況ですが、部品ベースでの供給は既に始まっており、来年1-3月期にはモーター完成品の量産が始まる見込みです。

売上高は、あくまでも当社の予測ですが、今期は約15億円程度、来期は約70億円と見ています。

キーボードの新事業は前述のとおりですが、合弁会社での生産は今年12月から開始し、2003年3月期中に月産150万台を達成し、2004年3月期には月産250万台、(全量を合弁会社で生産する)2005年3月期には月産400万台に増産する計画となっています。シェアは現在の20%から40%に伸びる見込みです。

当社の中国展開は、単にタイから主力製品の生産を中国に移すというものではありません。タイでは、20年間蓄積して来た生産技術や高い生産性を活かして、ボールベアリングや小型精密モーターのような超精密製品を中心に、引き続き事業展開を進めて参ります。一方、市場や競合メーカーが中国に集中し、コスト競争力の追及が大きなポイントとなるような製品に関しては、今後、中国での他社との連携による事業展開を考えてまいります。その第1歩が今回のキーボード事業です。

ミネベア株式会社決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。
実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。
実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。